

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292300060		
法人名	社会福祉法人 日浦会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 ルミエール雪浦		
所在地	西海市大瀬戸町雪浦下釜郷40-6		
自己評価作成日	令和2年10月24日	外部評価結果確定日	令和2年12月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

雪浦川に面した自然に囲まれた環境で居室からも白鳥などの野鳥を見ることができます。協力医療機関の医師による週1回の往診があり健康管理に努めています。行事は法人での夏まつり、敬老会。施設では誕生会、節分、クリスマス会などをおこなっています。毎月機関紙「ルミエールだより」、お知らせ「生活の様子」をご家族に発送し施設での様子をお知らせしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JgyvsvoCd=4292300060-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和2年11月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ルミエール雪浦はゆっくりと流れる雪浦川の畔に位置しており、窓辺に立つと自然豊かな風景が目に入り、利用者様は日々穏やかな時間を過ごすことができます。このような環境下、ルミエール雪浦は開設間もない繁忙な時期を経て、職員のスキルアップを含めたサービスの質の向上に挑戦している。1つの例として、来年度より地産地消にこだわった食事を提供予定とのことであった。「利用者様に新鮮な素材で作った美味しい食事を毎食提供したい」というルミエールの強い意思であり、利用者様の声を反映させる、いわば、利用者本位の取組みである。最後に、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、様々な制限を受けながらも、感染予防に十分留意しながら、日々、利用者様への生活支援を行っているルミエール職員全員の姿に感服した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で法人理念を唱和している。	ルミエールの理念の文言は、法人理念を踏まえて作成された内容であることを確認することができた。理念のポイントとしては、利用者様が大切にされていると感じてもらえるような介護を提供できるように、日々、職員はスキルアップを目指して取り組んでいる点であった。この事業所の理念は、理事長の想いを中心に文章化された内容で、「穏やかな時間を利用者様と共有しながら、できることややりたいことを一緒に考えていきましょう」という、ルミエールの立地環境と法人の想いがうまく融合した内容であった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校との交流会や地域行事への参加について地域と意見交換しているがまだ実現できていない。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、令和2年4月の開設当初に予定していたイベント等は、中止となったり延期となったが、地域柄、お互いに助け合う風土ができていて、ルミエール周辺の草刈りを地域の方々が手伝ってくれたり、通りすがりに声をかけてくれたりする等、すでに地域との関わりができていく。感染症の状況が落ち着いてきたら、近隣の中学校から職場体験を受け入れたり、地域のイベントに参画していく方針であった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出や面会の制限によって実現できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は書面会議にて活動報告し意見を頂いている。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、集合型の会議は行うことができないため、書類回覧型で実施していた。地域住民のルミエールに対する関心は高く、様々な質問等が寄せられていたが、特に自然災害対策については詳細に返事がなされていた。この内容のほかにもアクシデント報告に対する対処方法や、食事の内容等様々な立場からの質問が寄せられていて、ルミエールは一つひとつ文章で丁寧に返答していた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加で活動報告を行い現状を伝えている。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、対面式でのやりとりはほとんどできなかったが、法人の担当職員がメールを中心としてやり取りをすることが多かったとのことであった。まだ開設して1年未満ということで、行政との関わりも多く、場合によっては役所に出向いて経過報告をしたり、情報を共有することもあるとのことであった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にならないケアを職員間で日常的に注意しあっている。また、申し送りなどで支援内容の統一を図っている。	身体拘束をしないケアを持続的に提供するために、法人単位での身体拘束廃止委員会を月に1回開催して、不適切な言動がなかったか全体的に振り返りを行っている。現在、ルミエールにおける重点目標は、職員の言葉かけが行動抑制とならないように注意することであった。職員は不適切な言葉を耳にしたら、お互いに注意しあうようにしている。また、同時に利用者様の主訴をアセスメント表等で振り返っている点は、利用者様本位の支援を目指している1つの行動の現れと言える。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人でサービス向上委員会を2か月に1回開いており虐待防止を含めてサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要な時に支援できる体制をとれるよう学ぶ機会を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に相談員がご本人・ご家族との面談を実施し説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し意見・要望を受け付けている。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、利用者様とご家族様の面会に制限が生じた点が、ルミエールとしては一番心苦しかったとのことである。「家族と会いたい、面会させてほしい」の声に何とか応えるために、窓越しの面会ができるように工夫した。また、利用者様の希望で共用スペースに畳を設置して、この場で利用者様が洗濯物置をしたり、くつろいだりすることができるようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議・毎日の朝礼で意見や提案を聞いている。	職員からの意見の集約は、日常業務のコミュニケーションの中からや、月に1回開催予定のルミエール会議の場で共有するようにしている。開設して間もないため、まずは職員個々のスキルアップや、統一した支援の提供に重きを置いている。職員からの希望に応じる形で、ルミエールに防災無線の設置を行い、自然災害への備えを更に整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいを持って働けるよう職員一人ひとりに役割を持って働いてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月Dr.による講習会を行っている。また、資格取得の支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に他事業所の参加があり情報交換に努めたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の会話の中で不安や要望を聞き信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、ホームとしてはどのような対応が出来るか、事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに来ることは実行し、出来ないことも検討し対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の暮らしの中で1人ひとりの出来ることをお手伝いしてもらう事で関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内での本人の様子を毎月の「ルミエールだより」や「ホームでの様子」でお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	制限がある中ではあるがオンライン面会、窓越しの面会をおこなっている。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、人と人の交流が制限されていて、ルミエールとしても心苦しい状況であった。このような状況下ではあるが、窓越しの面会や、オンライン面会を通じて関係性を継続できるように工夫している。状況が変われば利用者様の希望に応じて、希望する場所への外出や面会を実施していく方針であった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にお手伝いができるようにしたり交流できるスペースを作り会話ができるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日浦グループ(法人・医療機関)でサービスが終了しても必要に応じて相談・支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の一人ひとりの思いや、希望、意向などを日々の生活の中で聞きだし、把握に努めている	7割ほどの利用者様は自己で意思表示ができ、外出先や食事についての要望を職員に示される。ルミエールは、その思いの実現のためにすぐに行動に移している。また、意思表示が難しい利用者様の意向は、ご家族様から聞いたお話から把握したり、利用者様の表情から読み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント・ケアプラン作成後はモニタリングを定期的に行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態を日誌として記録している。また、変化があれば申し送りで情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者がモニタリングをおこないケアマネジャーが介護計画を作成している。	職員1名につき、2～3名の利用者様のモニタリング表作成を担当している。また、月1回のルミエール会議(月例の全体会議)で、担当する利用者様以外の方の様子についても報告・共有する機会がある。これらの内容と医師の意見とを総合的に考えて、ケアマネジャーが介護計画を作成している。ルミエール全体で各利用者様の介護計画作成に関わっていると言える。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの日々の暮らしぶりを日誌に記録し、職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本人やご家族のその時々状況などに応じて、いろいろなサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市の職員、小学校、警察、地域代表、家族代表などに参加して頂いており周辺情報や支援に対する情報交換、協力関係をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の他、本人・家族が希望の医療機関へ受診している。協力医以外は基本的には家族同行の受診となっているが不可能な時には職員が代行している	ホームドクター制をとっており、原則、入居時にかかりつけ医を協力医療機関の医師に変えていただいている。毎週、ホームドクターの往診で健康診断を行っている。協力医以外の受診は基本的にご家族様の同行としているが、状況に応じて職員が同行し、受診後に電話で報告を行う。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日誌や申し送りで介護職・看護職の情報を共有し週1回の往診時にDr.に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはサマリーで医療機関との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでの看取りはしない方針で重度化した時や急変時は、他の施設又医療機関へ移って頂く事や対応について入居時に説明している	現段階ではルミエールで看取りはしていない。重度化や急変時には、協力医療機関や他の施設へ移っていただくように入居時に利用者様やご家族様から了承を得ている。今後、ルミエールでニーズに対応できる環境を整える予定にしているようだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設時に消防署より救急救命の講習をうけている。また、法人でも年1回の講習会が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災・自然災害それぞれに避難計画を作成しそれぞれ避難訓練を計画・実施している。	火災・自然災害の各避難計画とルミエールの緊急連絡網を作成している。ルミエール単独の火災訓練の他、地域の方や消防団、消防署と一緒にを行う避難訓練も計画、実施している。	避難訓練の実施内容や、課題と対策について、運営推進会議で報告をすることが望ましい。また、災害時に孤立してしまう事態も想定して、ルミエールに非常時のための備蓄をしておくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには、特に注意し尊厳を守り、声かけしている。	利用者様へ呼びかける際は「〇〇さん」、(利用者様には地元の方が多いため、)会話では馴染みのある方言を交えることもあるが、語尾が丁寧であるように職員一人ひとりが気を付けている。定期的に言葉遣いの研修も行っている。また、「ルミエール雪浦」などに掲載する写真は、入居時に使用への同意の有無を確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴やレクリエーションの参加など、声掛けでご本人が決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはあるが、一人ひとりのペースやコンディション、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容にてカットをしていただいている。また、服装選びはご本人が決める事が出来るように声かけしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態、嗜好等、把握しているまた、職員も一緒に会話をしながら食べている。	食事はシルバー人材センターに外注して、ルミエールのキッチンで毎食作っていただいている。食事の形態は、利用者様ごとに変えて食べやすく工夫をしている。毎食、完食される方がほとんどである。利用者様が掘った芋を蒸かしたり、干し柿を作って食べたりと、旬の食べ物でも食を楽しんでいる。また、利用者様から希望があり、来年度(4月)から地産地消の食材を使用するように準備を進めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いのある方にも食材を変更するなど、できるだけ対応している、居室でも水分補給できるよう湯冷ましを置いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には声かけして歯磨きをしていただいている できない方は毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に応じて介助を行っているトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行い、紙パンツが必要な方には使ってもらっている。	利用者様ごとの排泄リズムを記録し(毎週もしくは随時見直し)、適切な時間に声掛けをしている。また、利用者様の状態に合わせた排泄の介助や排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を行い便秘対策に取り組んでいる。また、便秘薬の服用に関しては往診時にDr.に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが本人の希望で日時を変えたり柔軟に対応している。	2日に1回入浴ができるように、入浴の回数を増やした。利用者様の全員が入浴を楽しんでおり、入りがらない方はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望に応じて休息や入眠ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は本人に手渡し、きちんと服用できているかの確認をしている。自分で出来ない人には投与している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や屋外での作業など出来るだけ希望に添えるよう支援をしている。	戸外に出るのを好む方が多く、なるべく希望に添えるように考えて支援をしている。(散歩や庭で園芸をしたり、地元の方が多いので、ドライブの途中、以前住んでいた場所やお墓の近くを通るようにしたりと工夫をしている)車いすの方は、バルコニーに出て、山や川を眺めながら日光浴をすることで、日常的に外気に触れる機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方はご家族の了解をもらい、個々の能力に応じて管理し要望があればいつでも使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという希望には出来るだけ応えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからは外の景色が見えるよう大きい窓をつけ、バルコニーに出れるようになっている。	日中は基本的に共用空間にいて、折り紙を折ったり、レクリエーションを行って過ごしている。また、家事をすることができる方は、洗濯物を畳んだり、床の掃除などを職員と一緒にやっているときもある。大きな窓からはたくさんの光が取り入れられ、また、外の景色もよく見える。利用者様が心地良く過ごせる共用空間づくりに努める中で、利用者様からの希望があった畳を設置した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでテレビを見たり一緒に作業が出来たり、廊下に椅子を置き外を眺めながらおしゃべりできるスペースを作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置などを今までと変わらないようにし、生活環境をなるべく変えないように配慮している。	ベッドとクローゼットは備え付けで、それ以外の家具の持ち込みに制限はない。以前の生活と同じような動線で過ごせるように、家具の配置に配慮している。毎日掃除を行い、清潔を保つようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで移動が安易なように工夫しているが転倒などの恐れがある方は見守りを徹底している。		